

特別シンポジウム

格差社会における階層意識の現状と課題

日時 2009年12月12日土曜日 13時30分～17時30分

場所 大阪大学人間科学研究科 東館 ユメヌ・ホール



階層意識研究は、高度経済成長後の日本社会について何を明らかにしてきたのか。そして、「格差社会」といわれるなかで、わたしたちは世論や社会意識のどのような動きに注目していくべきなのか——半世紀以上にわたって継続される「社会階層と社会移動全国調査(SSM調査)」プロジェクトにおける階層意識研究の意義を再確認し、階層意識研究の現在の課題と今後の可能性を包括的に論じる。

価値意識と階層との関連の変容

轟 亮 氏 (金沢大学・准教授)

階層帰属意識の数理モデルの展開

浜田 宏 氏 (東北大学・准教授)

階層意識項目設計における課題と可能性

—2005年SSM調査を中心に—

小林大祐 氏 (仁愛大学・准教授)

社会調査における標本設計と回収率低下問題について

—日本人の国民性調査を素材として—

前田忠彦 氏 (統計数理研究所・准教授)

コメンテーター

近藤博之 氏 (大阪大学・教授)

活動報告

吉川 徹 氏 (大阪大学・准教授)

